

2014年6月12日

## 次世代大型旅客機「777X」の開発・量産参画へ覚書

### 日本航空機開発協会と日本5社がボーイング社と調印

一般財団法人日本航空機開発協会(JADC)と、三菱重工業株式会社、川崎重工業株式会社、富士重工業株式会社、新明和工業株式会社、及び日本飛行機株式会社の5社はこのたび、ボーイング社と次世代大型旅客機「777X」の開発・量産事業に参画するための主要契約条件に関する覚書に調印しました。

777Xの機体構造分担については、現行777における各社担当の踏襲を基本として、三菱重工業が後部・尾部胴体及び乗降扉を、川崎重工業が前部・中部胴体、主脚格納部、貨物扉及び圧力隔壁を、富士重工業が中央翼、中央翼・主脚格納部結合、主脚扉及び翼胴フェアリング(前部)を、新明和工業が翼胴フェアリング(中・後部)を、日本飛行機が主翼構成品を手掛ける計画です。日本企業全体の製造規模は、777Xでは胴体延長による機体の大型化などにより、現行777を上回るものとなります。

777Xは、旅客の評価が高く航空輸送市場をリードする大型双発旅客機777シリーズの後継機で、777-8X及び777-9Xで構成されます。777Xは、現在-9Xを開発中で2017年に製造を開始、初号機の引き渡しは2020年を予定しています。